

【東京】精神科から救急科へ転向「両方の知識を持つ救急医が必要」-大高祐一・医療法人社団忠医会理事長に聞く◆Vol.2

救命救急センターの現場で感じた課題解消を目指し開業を決意

2025年11月26日（水）配信 m3.com地域版

大高病院（東京都足立区）は、医療法人社団忠医会理事長の大高祐一氏が「救急医療の円滑化」を目的に、2013年に開設した東京都初の救急科専門病院である。地域住民のアーjentケア（救急車を呼ぶほどではない軽症救急）のニーズに応えるとともに、認知症や精神疾患を抱える患者の身体合併症例を受け入れ、救命救急センターのバックベッドとしての機能も果たしている。精神科と救急科の診療に携わってきた大高氏のキャリアや、開業の経緯について話を聞いた。（2025年9月23日オンラインインタビュー、計3回連載の2回目）

▼第1回は[こちら](#)

▼第3回は[こちら](#)



大高祐一氏

——大高先生のキャリアの出発点は精神科だったそうですね。精神科医を志したきっかけについて教えてください。

子どもの頃に精神科医の話を聞く機会があり、患者さんが幻覚や妄想について語る姿を知って、人の心の不思議さに強い関心を抱きました。さらに精神科に関わる領域には、精神疾患と芸術・文化の関わりを探る「病跡学」と呼ばれる学問があります。特別な才能を発揮する患者さんもおられ、その独特な思考や物の見方にも引かれました。

近年は「健康寿命」という言葉が浸透し、身体が元気であることに加えて、心の健康や精神的な満足度が重要視されるようになっていきます。その点でも精神科は大切な分野であり、魅力的な診療科だと感じました。そこで東邦大学医学部を卒業後、同大学大森病院精神神経科での研修へと進みました。

救急科への転科を決め、東京医科大学病院救命救急センターの門を叩く

——精神科から救急科にキャリアを転じたのはどのような理由からでしょうか。

当時の研修は現在のように各科を回る方式ではなく、ストレートで精神科に進む形でした。専門性の高い研修を受ける中で、精神疾患で入院中の患者さんにも内科や外科の疾患を併せ持つ方が多く、身体疾患への対応力を求められ

る場面が少なくありませんでした。

特に印象に残っているのは、自殺企図のある患者さんが頭部を打ち付けて急性硬膜下血腫となった事例です。十分に対応できず悔しい思いをしました。また、脳炎後の後遺症があるうつ病患者さんがけいれん重積を起こした際にも、自分一人では対応できず、力不足を痛感しました。

こうした経験から、急性期における身体疾患の初期対応だけでも身に付けたいと考え、救急科への転科を決めました。重症度を見極め、幅広く対応する力を養うため、東京医科大学病院救命救急センターの門を叩きました。当初は救急科専門医資格を取得した後に精神科へ戻るつもりでしたが、実際に救命救急の現場で働くうちに大きなやりがいを感じ、結果的に救急科が本業となりました。同時に、精神科の知識を持つ救急医の存在が重要であると強く意識するようになりました。

救急科専門医と精神保健指定医を取得

——その後、東京医科大学病院形成外科や東京都立墨東病院神経科でも研さんを積みました。

当時の救命救急の現場は、現在よりも外科的救急が中心でした。限られた研修期間の中で、外傷や熱傷に対して自分一人に対応できる技術をできるだけ習得したいと考え、形成外科に出向しました。東京医科大学病院は歌舞伎町に近い立地ということもあり、暴力団関係者をはじめとした激しい外傷患者が多く見られました。顔面外傷や手指の断端形成、切創や刺創などを数多く経験しました。

一方、東京都立墨東病院は、都内で数少ない緊急措置入院を実施する施設です。精神保健指定医を取得するため、より重症度の高い精神患者が集まる環境で経験を積みました。この経験を通じて、患者さんの人生への関わり方や物の見方を学ぶことができたと感じています。

足立区で有床診療所を開業した理由

——開業はいつ頃から、どのようなきっかけで意識したのですか。

医師14年目に当たる2011年ごろから、開業に向けた準備を始めました。救命救急センターで再び勤務する中で、高齢者の看取りや精神疾患など、複数の診療科にまたがる対応が必要な患者が搬送困難になりやすい現状を目の当たりにしました。また、軽症の救急でも大病院に依存する風潮にも課題を感じたのです。

救急科と精神科、両方を経験した自分だからこそ、「地域の救急医療に役立てることがある」と考え、開業を決意しました。足立区を選んだのは、都内でも救急車搬送件数が多く、精神科病院や高齢者施設が集中する地域だったためです。2013年に5床の有床診療所として大高医院を開業し、同年12月には病院へと改組しました。

◆大高 祐一（おおたか・ゆういち）氏 ※高は「はしごだか」

1998年東邦大学医学部卒業。同大大森病院精神神経科、東京医科大学病院救命救急センター、東京医科大学病院形成外科、東京都立墨東病院神経科を経て、2009年東京医科大学病院救命救急センター医局長。2013年大高医院開設、同年大高病院に改組。2017年に医療法人社団忠医会を設立、理事長に就任。日本救急医学会救急科専門医、精神保健指定医。

【取材・文＝久保 圭】（写真は病院提供）